

平成17年8月の解説（週間天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は、朝鮮半島から東北地方に停滞した梅雨前線が北上して、4日に東北地方で梅雨が明けた後、日本付近は太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多くなりました。中旬は、前半、本州付近に前線や低気圧が停滞し、東日本を中心に広い範囲で雨の日が多くなりましたが、後半は太平洋高気圧に覆われて再び晴れる日が多くなりました。下旬は、前半に前線が日本海から本州中部にゆっくり南下したため、本州付近は曇や雨の日が多くなりました。月末には台風第11号が関東地方南部に上陸し東日本を中心に暴風雨となりました。

月を通しての日照時間は、北海道地方では平年の120%以上となった観測地点もありましたが、その他の地方では少なく東北、関東甲信地方では平年の80%以下となった観測地点もありました。降水量は北日本の日本海側と東日本では平年より多く120%以上の観測地点が多くなりましたが、北日本の太平洋側と西日本では平年より少なく、西日本では多くの観測地点で70%以下となりました。月平均気温は全国的に平年より高く、北日本では多くの観測地点で1以上高くなりました。

【8月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より2ポイント低い63%でした。東北、関東甲信、東海、北陸、近畿地方では6から11ポイント低くなりましたが、北海道、中国、九州北部、沖縄地方では5から10ポイント高くなりました。最高气温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1小さい2.3で、四国地方で0.6大きくなりましたが、北海道地方で0.5、北陸地方で0.4小さくなりました。最低气温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国的に例年と同様で、全国平均では例年より0.1小さい1.6でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の週間天気予報から】

8月12日～16日の東京地方の天気を、当該日の4日前から7日前に発表した週間天気予報では、雨は降らないと予報しました。

12日については2日前に、13日と15日については3日前に、16日については前日に発表した天気予報で雨が降る予報に変更しました。実際、14日を除いて東京地方のほとんど全域で雨が降り、4日前より以前に発表した天気予報では予報をはずす結果となりました（表）。

	予報発表日														実際の天気	
	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	昼	夜			
	予報対象日	12日	13日	14日	15日	16日	12日	13日	14日	15日	16日	12日	13日	14日	15日	16日

2005年8月12日～16日の天気予報と実際の天気（東京大手町の例）
（表の見方：左上端のマークは5日に発表した、12日の天気予報が「晴れどきどき曇」だったことを示しています。）

この期間の雨は、本州中部付近で前線が停滞したり（図1）、規模の小さな低気圧が通過したり（図2）したために降りました。この時の東京地方での雨の降り方の特徴としては、8月12日から8月13日にかけて比較的まとまって雨が降っているものの、広範囲に一斉

に雨が降った（同時刻に雨が降る観測点が東京地方にある60%以上の観測点）のは4時間だけで、その他の期間は比較的狭い範囲もしくは散発的に（同50%以下の観測点）しかも一日に2,3回に分けて断続的に雨が降ったことがあげられます(図3)。規模の大きな低気圧(図4)が通過した場合(5月6日から7日にかけての例)の東京地方での雨の降り方を見ると、広範囲にわたって長時間(8時間)連続して降っているという特徴があります(図5)。

規模の大きな低気圧の動向と雨の降り方は数日前からでもある程度予測できることが多いのですが、規模の小さな低気圧や前線の動向とそれに伴う雨の降り方を数日前から予測することは大変に難しく、天気予報を外す原因の一つになっています。

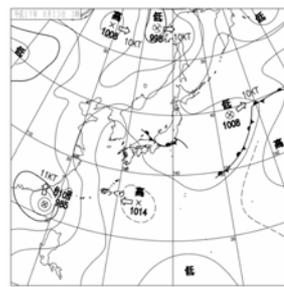


図1 地上天気図
(2005年8月13日3時)

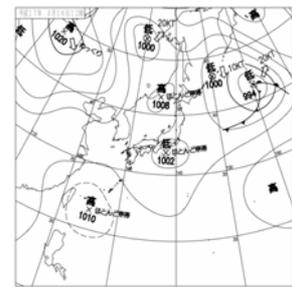


図2 地上天気図
(2005年8月16日12時)

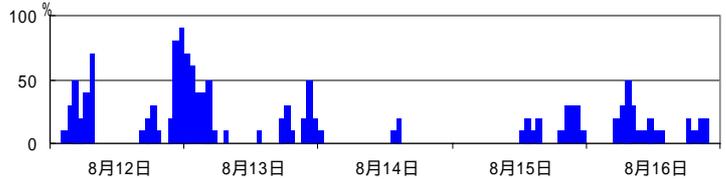


図3 東京地方で同時刻(1時間)に1mm以上の降水量を観測した地点数の割合
2005年8月12日～16日

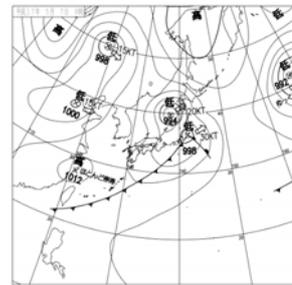


図4 地上天気図
(2005年5月7日9時)

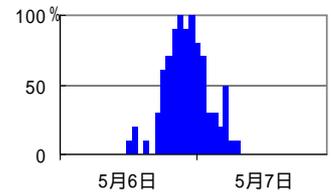


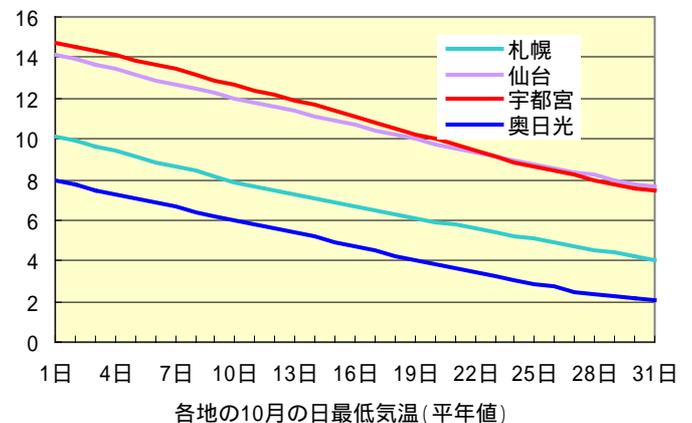
図5 東京地方で同時刻(1時間)に1mm以上の降水量を観測した地点数の割合
2005年5月6日～7日

【10月の週間天気予報の利用にあたって】

「秋の日はつるべ落とし」といいますが、太陽の照る時間が次第に少なくなって、秋から冬にかけて気温も急速に下がっていきます。10月には北日本や標高の高い本州の山では雪が降ることもあります。

気温は標高が高いほど低くなります。最低気温の平年値で見ると宇都宮(標高119m)では10月の末に8程度ですが、同じ栃木県の奥日光(標高1292m)では同時期で2程度にまで下がっています(図)。気温が数を下回ると降水は雪となる可能性がありますので、平地の都市部では雨であっても気温が10前後より低ければ付近の山々では、雪が降る可能性が高くなります。

10月は、さわやかな秋晴れとなる日も多くレジャーなどで山に出かける機会も増えますが、特に北日本の山や標高の高い地域などにお出かけになる際には、天気予報で気温や山で雪が降るような予報が出ていないかを調べ、あらかじめ雪や寒さへの対策を考慮されることをお勧めします。



各地の10月の日最低気温(平年値)